

【あるたても / 太田尾 / 長崎】

<作品について>

国内外の教会のスケッチを数年続ける。近年「たても」の派生として心象彫刻を制作。その二作目。モデルとなった地域は長崎県西海。たてものは太田尾教会。西海は長崎市から車で二時間弱。大きな橋を渡るの島に行く感覚は薄い、佐世保でもなければ長崎でもない立地は、船で離島へ進むより遠い場所と感ずる。教会近くに海がある。彫刻下部をよく見ると波の様子が施されている。

<手法について>

積層した板材、MDF に、浸透性のポリウレタン系樹脂塗料を含浸させ固める。下地を二種乗せ、交互に研磨し木目を消していく。塗料（カシュー）はクリアーに顔料を混ぜ自作したものも使用している。本作品のコバルトバイオレットやコバルトグリーンは原色を使用し、ほか混色にもオリジナル塗料が使用されている。カシューのホワイトは時間とともにやや黄変するが、これは塗料の性質によるものである。

【閃光 / 彫像 / 浦上 / 長崎】 紙にパステル、アクリル、インク

浦上教会は原子爆弾の落下中心地碑のすぐ近くに建っている。凄まじい閃光とともに教会の一部を遺してそのほとんどが吹き飛んでしまった。教会関係者から「見たことのない強烈な光だけを覚えている」と聞いた。教会周辺には、被曝し崩れた彫像やその頭部があちこちに配置されている。

【ある聖人 / こどもの声 / 神ノ島 / 長崎】 紙にパステル、アクリル、インク

神ノ島はかつて潜伏キリシタンの島だったが、埋め立てが進み現在は陸続きとなっている。神ノ島教会は海沿いの工業地帯の一角の斜面に建っており、そこにいと近くの幼稚園児たちによる大きな歌声が聞こえ、外れたキーと無邪気さが混じり合ったその歌声に、思わず笑わされてしまう。教会には 14 歳で亡くなったドミニコ・サヴィオという、ある若い聖人の像が建っている。彼は子供たちの守護者だ。10 代の頃は石膏デッサンの意味がわからず、沢山のギリシャ彫刻の解釈に悩まされたものだが、近頃は旅の途中に、お稲荷さんや、御神犬、地藏、観音像、聖人像など、沢山の作者不明の像に出会っては心惹かれている。

【マリア観音 / 加計呂麻島】 紙にパステル、アクリル、インク

奄美の加計呂麻島、西阿室教会にあるマリア観音は、いわゆる潜伏キリシタンが秘密裏に拝んでいた像とは異なる存在である。戦後、島内の観音像が、島の占者の娘の夢に現れて「マリアぞよ」と、のたまわったとお告げがあり、その集落を布教の場としたところ、島内に信者が一気に増えたとある。加計呂麻島のマリア観音は教会献堂当初から礼拝堂のシンボリック的存在なのである。

観音像が安置されている教会に二度ほど訪れている。一度目は宿の予約を間違え、路頭に迷っていたところ、教会に泊めてもらえることになった。二度目の取材では観音像のある聖堂内で、荒波による中型フェリーの運航休止の島内放送を聞いた。奄美大島に戻れず困っていたところ、大型の貨物船に鉄屑や資材と一緒にレンタカーごと載せてもらえることとなり、かろうじて帰ることができた。

【犬 / 阿里山 / 台湾】 紙にパステル、アクリル、インク

この頃、旅に出ると必ずといっていいほど、放し飼いの犬（または野良犬）が僕の前に現れて、意味深な態度を取った。阿里山は標高の高い場所だったが、ここでもやはり犬が現れて僕の旅路の先導を始めた。犬はカップ焼きそばの容器を大事そうにいつまでもくわえていた。彫刻を含め、これまで何点か犬にまつわる心象を制作している。